



福田社長(上段左)とメンテナンススタッフ

福祉用具レンタル卸のプライムケア中京(岐阜県大垣市、福田樹人社長)は4月1日、愛知県小牧市にメンテナンスセンターをオープンした。

福田社長は「これまでメンテナンスの一部をグループ会社であるプラ

外部に委託していたが、設立から8年が経ち、アイテム数やメンテナンスのニーズの増えた商品も増えてきた。メンテナンスの質と作業効率化による用具の稼働率を上げていきたいと考えた」とオープンの経緯を話す。

### 中古販売、病院レンタルのニーズ増加

同社は、介護施設・事業所からの中古福祉用具の売却の依頼増加を受け、4月に「商品企画推進室」を立ち上げた。現在、施設で利用している福祉用具の劣化による問合せや安価で購入可能な中古用具の相談が多いという。「メンテナンスと清掃を行い、厳しい自社点検を通過したレンタル福祉用具は、



販売から期間が経っていても性能の衰えが少なく」と福田社長は話す。

新しい福祉用具の在庫を確保していくなかで、型が古くなった福祉用具を中古価格で販売していく。施設からもできる限り金額を抑えたいとの要望がある。中古でも品質の良い福祉用具を揃えて販売にも積極的に取組ん

## 住宅型有料ホーム「ななかまど津志田」AI使った「スマートルーム」が人気

岩手県雫石町や盛岡市で介護事業などを展開する航和(佐々木航社長)は、3月15日、盛岡市に住宅型有料老人ホーム「ななかまど津志田」をオープンした。

AI(人工知能)による音声アシストデバイスを導入した「スマートルーム」を設けるなど、ICTを積極的に取り入れた施設運営が特長だ。

注目を集めているのが、30室の中に1室だけ設けられた「スマートルーム」だ。アマゾンの音声アシスタント機能「アレクサ」が備えられた居室で、専用機器に話しかけると、インターネットを介して、離れて暮らす家族と顔を見ながら会話



専用機器に話しかけると、会話や家電の操作ができる

量鉄骨造2階建てで全30室。全室「ななかまど津志田」は盛岡市津志田町に開設。軽量鉄骨造2階建てで全30室。全室

に温水洗浄トイレ、洗面化粧台、チェスト、エアコンを完備する。

「高年齢者が使うと、より便利なのではないか」と考えたのがきっかけ。

同ルームの設置は、佐々木社長が自宅で「アレクサ」を使っている中で、「高年齢者が使うと、より便利なのではないか」と考えたのがきっかけ。

「高年齢者が使うと、より便利なのではないか」と考えたのがきっかけ。

「高齢者はITが苦手」というのは偏見で、興味を持たれている人も少なくない。スマートルームでどなたも暮らしが便利になるのか、実際に確かめてみたかった」と狙いを話す。

「介護リフォーム本舗」のブランドで、フランチャイズ事業などを展開するユニバーサルスペース(横浜市、遠藤哉社長)は、AIを使った介護リフォーム用のアプリを開発、実用している。同社撮影すると、クラウド上のアプリ「FUSII(フラスツー)」は、タブレット端末のカメラを使用する。手すりの取り付けなども可能だ。



遠藤哉社長



必要な手すりの長さもアプリで計測

## 悠遊「抱え上げない」がコンセプトの施設開設

社会福祉法人悠遊(東京都西東京市、鈴木礼子理事長)は3月1日、東京都中野区に小規模多機能型居宅介護やグループホームを備えた複合施設「悠遊えごた」を開設した。「自立するための介護をコンセプトに、利用者



面でしっかりと体重を支える「FUNレストテーブルα」

立ち上がりの際は、立ち上がろうとする勢いや重心移動を上手に利用し、体を起こす。利用者の筋力維持につながり、職員も、余り分な力が不要に



⇒